
フレッシュミントの香り

荒井 真

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フレッシュミントの香り

【Nコード】

N3730A

【作者名】

荒井 真

【あらすじ】

酔い覚めの水の旨さを知らぬ下戸。オレたち会社員は、悲しみを稀釈するように、日々酒を飲む。今日は明日よりましな一日だった。たぶん。

ホワイト&ホワイトライオン。

フッ素のはたらきで歯質を強くしムシ歯を防ぐ、白い歯、健康な歯をまもるハミガキ。

ファミリートタイプ170g。

そんなものが、オレの鞆に入っていた。

会社の第一応接室、午前5時。

昨夜は会社の上司と同僚と三人で「軽く」飲みに行き、そのまま終電をなくしたようだ。

それ事態は珍しいことではない。この応接室のソファには、幾度かお世話になっている。自分の部屋のベッドのように、身を横たえくつろぐことが出来るようになった。

しかし、なぜ新品の歯磨き粉なんかがオレの鞆に入っていたのだろう。

寝る前に磨こうとしたんだろうか、歯。

しかしホワイト&ホワイトライオンの箱は未開封のままだから、結局歯磨きせずに眠ってしまったらしい。

歯ブラシも買うべきだったのだ。

買ったのか？

ふとオレは心配になった。

あまり覚えてないけど、オレと同僚はかなり酔っぱらっていたはずだ。

オレは道路に並んだカラーコーンを順番に蹴飛ばし、同僚は所かまわず立ち小便をしていたような気がする。

悪ふざけして、どこかのコンビニで万引きとかしたのではないのか。

そこで同僚のことを思い出した。

隣の第二応接室をのぞきに行と、いた。

腹這いにソファの背もたれによじ登っているような、不思議な寝相をしている。

眼鏡と携帯電話がテーブルの上に置かれ、脱いだ靴と靴下が床に転がっていた。

あいつも結局帰れなかったんだ、と少し安心する。

放っておくと、ゲラゲラ笑いながらどこかに走っていくような奴だからだ。

そういえば、明日は現場に直行だから、会社に泊まった方が早い、とか言っていた。

だんだん思い出してきた。

それで会社にヨタヨタと帰ってきて、近くのコンビニでお茶とか買ったのだ。

さらに鞆をあさると、くしゃくしゃになったコンビニ袋が出てきた。

レシートが残っている。

買ってるし歯磨き粉。

しかも一人暮らしに170gは多すぎやしないのか。

他にはウーロン茶2本と、ベルギーワッフルを買っている。

あー、買ったよベルギーワッフル。

思い出した。

オレは酒を飲んだ後、無性に甘い物が欲しくなるタイプなので、昼間は絶対買わないベルギーワッフル買ったんだ。

それで歩道に座り込んで寝てしまった山本課長の分もウーロン茶買って、

あれ課長？

オレは第三応接室を確認しに行った。
いた。

結局課長もタクシー呼ばず、会社で寝ていたわけか。

そう、それで三人で酔い覚ましに、しばらく外でウーロン茶飲んでいたのだ。

それでオレがベルギーワッフル食べようとしたら、

「何ひとりだけ食おうとしてんだーっ！」

と山本課長に横取りされて、全部食べられてしまったのだ。

わはは。食ってねーよベルギーワッフル。

とりあえず、5時から割り引きのサウナに行き、歯を磨いてひげを剃ることにした。

というわけで、このホワイト&ホワイトライオンはオレには不要だ。

オレは第二応接室で眠る同僚の鞆に歯磨き粉の箱をつっこみ、会社を出た。

外はまだ薄暗く、肌寒い。

昨晩はいい、何がそんなに面白くて飲んでいたのでろうか。
ついにそれだけ思い出せなかった。

夕方、まだ酒が抜けきらないようなくたびれた顔をして同僚が帰社した。

「なんか鞆の中、真っ白しろだったんすけど」

書類やら着替えのシャツやら詰め込んだ彼の鞆の中は、つぶれた齒磨き粉のチューブが猛威をふるい、それはもう凄惨の一言だった。

だけど、香りだけは爽やかだったのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3730a/>

フレッシュミントの香り

2010年10月20日12時40分発行